



鳴子だより

第14号



学校HPはコチラ

名古屋市立鳴子小学校



校長室より

一年間ありがとうございました

校長 厚東 実

これまで一年間、本校の教育活動にお力添えいただきましたことに改めてお礼申し上げます。また、毎日の検温や体調管理に努めていただき、毎日、お子さんを送り出していただけました。おかげさまで、鳴子の児童は前向きに一年間健康で元気に学校に通うことができました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、3月17日、保護者、教職員に見守られ、6年生74名が鳴子小学校を巣立っていきました。卒業生が未来に向かって大きく羽ばたくことを期待しています。以下は、卒業式で話した内容の一部ですが在校児童に対しても伝えたいメッセージです。頭の片隅にとどめていただければ幸いです。

今日、一年間頑張ってきた全校の皆さんに、言葉を一つ贈ります。それは、「あきらめず 全力で力を出し切る」ということです。皆さんは、昨年行われた「サッカーワールドカップ」を覚えていますか。日本代表の選手たちも、世界の強豪と戦いを繰り広げましたね。

組み合わせは、優勝経験のあるドイツ、スペインと同じ組で、「死の組」と呼ばれ、予選突破は無理だろうと、否定的な意見ばかりでした。私自身も、それを聞いて、「あー今回は無理だ、うまくいって一勝できるかどうか」と、全く期待していませんでした。しかし、結果はどうでしょう。世界の予想を裏切り、ドイツ、スペインを破るといって歴史的勝利をあげて、リーグ1位で予選を通過しました。その後の、日本初のベスト8を懸けたクロアチアとの試合では、惜しくもPKで負けてしまいましたが、世界中を熱狂させる戦いを見せてくれました。私も日本代表の活躍に興奮し、大きな勇気をもらいましたが、その一方で、始まる前から負けと決めつけて、はじめから諦めていた自分がとても恥ずかしくなりました。

スペイン戦での三苫選手。ラインを割る1ミリというギリギリまでボールを追い、味方にパスできたことにより、日本が逆転ゴールを決めることができました。

もし、走ることをやめていたら。もし、足を伸ばさなかったら。もし、一瞬でも手を抜いていたら。三苫選手は一切あきらめず、自分の力を出し切ったのだと思います。それなしでは、あのゴールは生まれず、試合の結果も違っていただかもしれません。

皆さんは、これからの生活、楽しいことばかりではなく、多くの困難にも出会うでしょう。はじめからあきらめないで、失敗を怖がらないで、自分を信じて全力で力を出し切りましょう。簡単に目標を達成してきた人より、数多くの困難の中、全力で取り組み続けてきた人の方が、強いはずですよ。

ただ、そんな中でも、悩み、苦しみ、どうにもならない時もあると思います。ドイツ戦でゴールを挙げた浅野選手は、こんなことを言っています。「自分の力ではどうにもならないとき、僕は人の力に頼ってきました。特にケガをしてからは頼りっぱなし。でも、頼れる場がないと頼れない。今こうしてこの場にいられることに、感謝しています」

みなさんには、家族がいます。励まし合える仲間たちがいます。温かく見守ってくださった先生方や職員の皆さん、学区の方々があります。苦しくなったら、周りの力に頼りましょう。きっと、みなさんが全力で進もうとする力をアシストしてくれるはずですよ。



◆◆令和5年度の主な取組◆◆

運動会（5/27土）

全学年が集っての運動会を実施します。保護者の方の人数制限等なしで参観いただけるようにします。熱中症対策を進め、午前開催といたします。

学芸会（11/11土）＊児童鑑賞は10日（金）

表現力育成のため、学芸会を実施いたします。より広い空間で演技ができるよう、舞台を広げていきます。感染症は第5類になりますが、体育館での密を避けるため、現在のところ、お子さんの演技のみ鑑賞いただけます。＊今後の状況により変更あり

鳴子・スクール・イノベーション（学校努力点授業）

先の読めない世の中、子どもたちには、自ら最適な課題を持ち、計画、振り返りといった自己調整をしながら学びを獲得していく力が求められます。これまで、歩みが早い遅いにかかわらず、教師の一斉授業を行ってきましたが、児童個々の課題や進度に応じた新たな授業づくりを行います。初年度の取組であり、学年で決めた一部の教科とはなりますが、一年間継続的に取り組んで参ります。授業の様子は、HPや、授業参観でご覧いただけるようにいたします。

